

JOMF 派遣医師便り (2016. 5)

◆シンガポール◆

新型の救急車～これからは音よりも振動？

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

救急車の後方からの接近が振動でわかるようになるかもしれません。
次世代の救急車がデビューしようとしています。

シンガポールの公的な救急車は軍(Singapore Civil Defence Force)の管轄ですが、次世代救急車のデザインや装備は、実際に現場に勤務するオフィサーもその開発に加わりました。アメリカ、ドイツ、オーストラリアなどへの現地視察も行ったとのこと。

交通量の増加が著しいシンガポールでは、救急車に効率的に道を空けることが、容易でないことがしばしば見受けられます。ただ、場合によっては、交通量のためではなく、救急車のサイレンが良く聞こえず、その接近に気がつかなかったということから、結果的に道を空けなかったことになった例もあるようです。こうした例が2014年では10例、昨年も7例、報告されています。これは現代の車がより防音性が高くなってきていることにも関与しています。

次世代の救急車のサイレンは現在のものよりも、音が低く、前を走る車に音波が伝わり、軽い振動を起こさせる性質があるとのこと。これにより、救急車両の接近により気づきやすくなることが期待されます。

救急車両の内部には他にも工夫が見られます。例えば、頸椎損傷などの患者さんを想定し、サスペンションに空気と水を利用したクッション性の高いベッドや、消毒を容易にするための継ぎ目のない内装などです。また、航空パラメディックからのアイデアで運動性能の高いシートベルトも装備されることになりました。走行中に患者さんケアを行う際、今までは、乗務員はシートベルトなしの状態にならざるを得ませんでした。次世代型救急車ではこの工夫されたシートベルトのおかげで、シートベルトを装着したままで、患者さんのケアを行うことが出来るようになります。

人口増加による過密化、車両数の増加による交通事故の増加、人口の高齢化に伴う有病者の増加など、救急車が必要な場面は、シンガポールでは今後益々、増えそうです。救急車のハイテク化は時代の要請に応えたものであると言えます。